

03

川西市地域分権推進事業 ニュースレター

第3回地域夢・未来カフェ in 東谷

地域分権制度の検討の一環として、地域課題の解決に向けた具体的な活動案を考えながら、地域分権制度についての意見をいただくため、「第3回地域夢・未来カフェ in 東谷」が開催されました。

日時：2013年2月22日（金）19:30～21:30

場所：東谷公民館

参加人数：市民18名

当日のスケジュール

- 19:30 開会
- 19:35 当日スケジュール説明・ふりかえり
- 19:40 テーブルワーク（活動案のとりまとめ）
- 21:05 グループ発表
- 21:25 今後の流れの説明
- 21:30 閉会

開会～当日スケジュール説明・ふりかえり

開会のあいさつの後、当日スケジュールの説明と第2回カフェのふりかえりがありました。第2回の議論を引き続き行い、最終的な活動案にとりまとめていくことの確認が行われました。



テーブルワーク～グループ発表

各グループのテーマ

- Aグループ：地域活動が活発なまちにする
- Bグループ：誰もが交流できるまちにする
- Cグループ：子育てしやすいまちにする
- Dグループ：地域活動が活発なまちにする

テーブルワークでは、第2回に引き続いて活発な議論が行われ、最終的な活動案がとりまとめられました。できあがった活動案については、各グループから全体に向け発表しました。

Aグループでは、住みよいまちにするには、Bグループでは東谷カフェチェーン店構想、Cグループでは子育て補助の受け皿組織について、そしてDグループでは、地域分権ついでの話し合いが行われ、発表されました。



Aグループ 地域活動が活発なまちにする

目標

- ・住んでみたいまちにする
- ・猪名川町は頑張っている
 - ex)ジャスコ、体育館、無料駐車場
- ・北陵は育てやすい

商工会

- ・商工会はがんばっている
- ・東谷ズムは商業者が中心に企画・運営している
- ・川西祭りも同じ

住んでみたいまちにする

- ・身近なところに公園がある
- ・桜の苗木を植える
- ・住んでいる人が行きたくなるイベント。
- ・イベントのためのイベントにしない

- ・納涼祭は残すべきである

地域カフェの拡充

- ・福祉カフェの拡充
- ・民家を活用する
- ・自治会ごとの地域カフェ

地域分権の受け皿組織について

- ・コミュニティしかないのでは？
- ・まちづくり部会が中心になるのでは？
- ・何をやるかによって執行機関が変わる

地域予算制度について

- ・いきなり予算を渡されても、どうしていいかわからない

Bグループ 誰もが交流できるまちにする

活動メニュー

- ・交流場所の提供
- ・多世代交流プログラムの実施

条件、アイデア

- ・カフェの開設
- ・だれでも気楽に参加できること（昔遊び・歌）

活動場所、主体

- ・場所は各自治会
- ・最初は自治会の有志、そこから人の輪、アイデアの輪が無限に広がる

行政がすべき取組

- ・開設のための資金、備品援助

具体的タイムスケジュール

- ・3か月後、1号店（一庫）準備中

大切にしたいこと

- ・気楽にできること
- ・誰でもできること
- ・初級から上級に一気に上がれない

現在の取り組み

- ・青少年の豆つかみ

気楽な取り組み例

- ・自転車の遅乗り競争
- ・同好会よりも趣味の会
- ・東谷検定
- ・昔あそびを再現
- ・運動会のプログラムを充実させる

場所づくり

- ・来期からカフェを開く
- ・口コミで少しずつ人が来る

Cグループ 子育てしやすいまちにする

受け皿組織について

- ・入りやすさが重要
- ・まちのカラーを出す

多くの団体が連携するために

- ・NPO 側のスタンスと意思にもよる
- ・取組ベースで関わってもらう
- ・主体はあくまでも地域というスタンス

使い勝手のいいお金の使い方

- ・人件費の問題。ボランティアの有償化？
- ・NPO等が関わる際も人件費の問題が出る
- ・使い方も地域に任せてほしい

地域主体の範囲

- ・地域への押し付けはダメ

地域担当職員

- ・市職員じゃなくても良い
- ・御用聞きだけでは困る
- ・地域の拠点に詰めてもらえる人がいいのでは
- ・聞きたいことに対して、明確にすぐに応えられる人

公園の使い方について

- ・公園の管理・清掃業務を地域が請け負う
- ・どこまでは地元がやるべきか？

子育て・放課後について

- ・NPO が自主的に入ってもらえれば
- ・学校とつなぎのできる人がいれば

Dグループ 地域活動が活発なまちにする

広報

- ・地域活動を市の広報に載せるのはハードルが高い
- ・川西市にはミニコミ誌がない

人材

- ・地域活動を行う人材の発掘、育成が重要である
- ・優秀な人材が多い
- ・現状は協働意識が育っていない

地域担当職員

- ・地域出身で OB(60~65 歳)
- ・若手では難しい

自治会

- ・自治会とコミュニティの連携が弱い
- ・自治会長の半分以上は一年で入れ替わり

権限

- ・施設(公民館・郷土館)の管理・運営
- ・公園などの管理
- ・指定管理者として受託してみる
- ・コミュニティビジネスになる
- ・公民館長は地域をよく知る人に！！
- ・下請けや外注ではダメ

活動費

- ・多額のお金を使いこなせる力量がない
- ・自治会費は一括にするなど
- ・資金選定の組織が必要である
- ・人件費=ボランティア

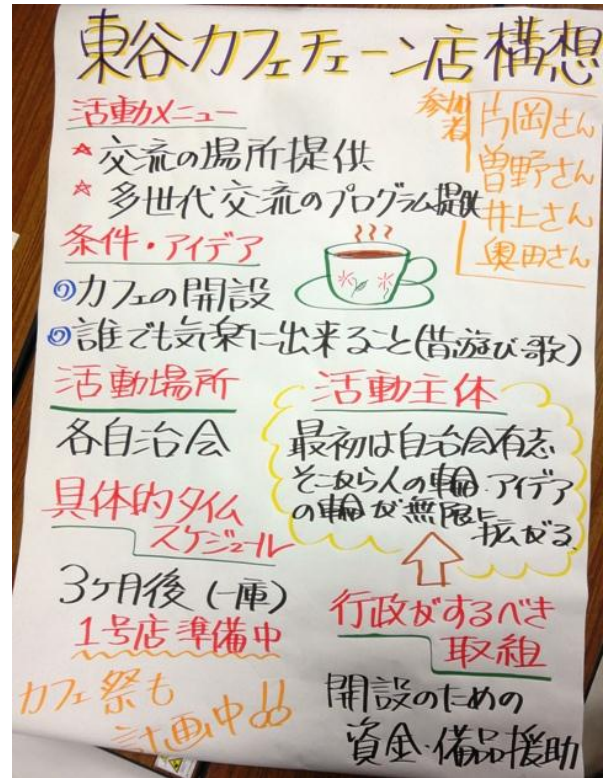
受け皿

- ・各団体がそろっているコミュニティで
- ・一般公募や市民委員が必要である

Aグループ 地域活動が活発なまち



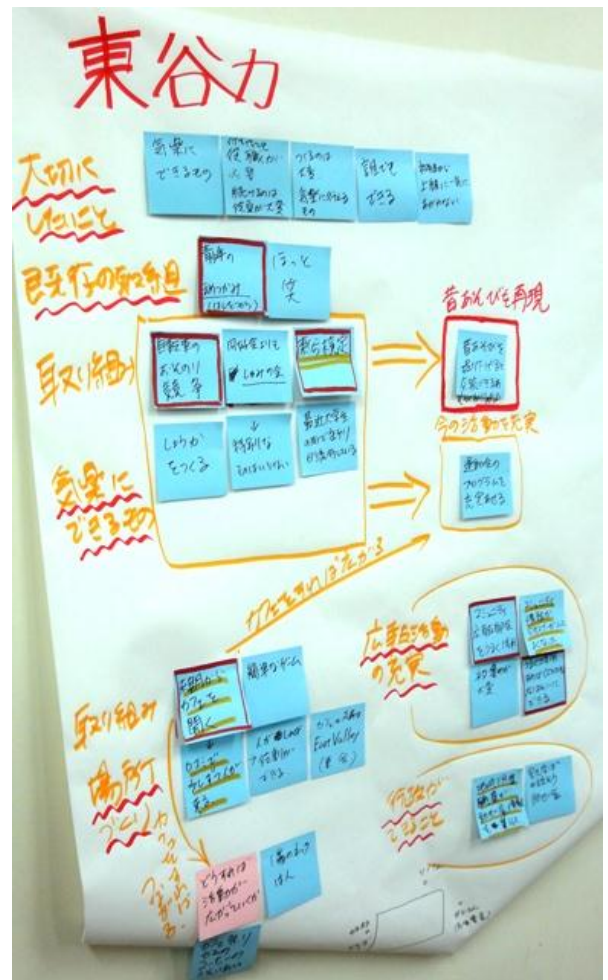
Bグループ 誰もが交流できるまち



Cグループ 子育てしやすいまち



Dグループ 地域活動が活発なまち



各グループの模造紙画像